

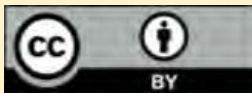
書誌調整連絡会議

2025.10.16

「書誌計画2030」(案) への私見

渡 邊 隆 弘
(帝塚山学院大学)

watanabe@tezuka-gu.ac.jp



渡邊の勝手な意見(最近の当会議)

2022年度:ジャンル・形式用語

ジャンル・形式典拠の拡充(客観性・厳密性を過度に意識せず)

2023年度:全国書誌サービス

全国書誌の「速報性」のさらなる向上

典拠コントロール対象の拡充(書誌データ水準)

他機関の地域資料等の典拠コントロール組み入れ(網羅性向上)

2024年度:典拠コントロール

著作(・表現形)コントロールの拡充(一部機械的にでも)

下位レベル(構成著作等)への典拠コントロール拡充

典拠LODデータ提供の実有効性

国内の典拠データの相互運用性向上

渡邊の勝手な意見(もう少し前の当会議)

NCR2018策定の立場から

規則の特徴(新しさ)を発揮できる実装を

★これから：実装に期待

毎年くりかえしになりますが...

さまざまな特徴を生かすのは、実装・運用

これまでよりも、自由度の高い規則
＝これまで通りでも「違反」にならない

作るデータの意味を問いつつ、実装を...

NDLをはじめとして、
本日お集まりの機関のみなさまに期待

2018年度の
発表スライド

書誌コントロール活動に望むこと

「資料のもつ利用可能性を最大限に顕在化」

(NCR2018 #0.4 目録の機能)

一元的・統合的な情報発見環境

可能な限り網羅的な「集中機能」
典拠コントロールの拡充

可能な限り豊かな「関連」情報
典拠コントロール $+\alpha$

幅広い相互運用性
十分な機械可読性をもったデータ
図書館界の外にも開かれたデータ

これらを、一定程度分散化された作成環境のもとで実現

今回の素案を拝見して(1)

全国書誌の「拡張」(1.1)

大変、意義深いこと

「典拠コントロールの拡充」にも言及

「具体的なことは、これから検討」に期待

特に、地域資料など

網羅性の向上(地域資料など) 網羅性

手近な図書館の地域資料を検索してみると

NDLサーチで見つからないものはそこそこある

陶器山 天野街道の四季

山中亀男 写真集

大阪狭山市立図書館OPAC

国立国会図書館サーチ
NDL SEARCH

予約数0 貸出可能数0 貸出数0

著者 山中 亀男/著

出版者 山中 亀男

出版年月 2022年04月

陶器山 天野街道の四季

統合検索によって補完するという考えかたでは
典拠コントロールまでは解決しない

納本率の向上が難しければ...

他の図書館と協働し、地域資料等をNDLの典拠コントロール
に組み入れるような仕組みは作れないか

つまり、他の図書館の資料も「全国書誌」に参画

2023年度の
渡邊スライド

今回の素案を拝見して(2)

紙と電子の一元化(1.2)

これももちろん、意義深いこと
特に、「典拠コントロールの一元化」

具体的には(正しく読み取れていないかも...)

紙と電子があれば著作データ作成、ということ？

「複数の体现形があれば」のほうがすっきりするが...
ボーンデジタル(紙なし)は典拠コントロールされない？
(「書誌データ詳細度の一元化」でなされる？)

今回の素案を拝見して(3)

書誌データの拡充・機能強化(2.1)

識別子、典拠データ、「関連」という重点項目(2.1.1～3)は妥当

事前資料だけでは十分理解できないところも？

具体の規模感がつかみづらかった

現計画で新規導入の「ジャンル・形式用語」への言及なし？

記事・論文の書誌データ(2.1.4)

重要と思うが、これも具体が十分理解しがたい

典拠コントロール？(拡充できれば意義深い)

データ作成の効率化が有望なところかも

今回の素案を拝見して(4)

メタデータの連携拡大(2.2)

「典拠データの共同提供」は意義深いこと

NCR作成・維持の立場からは...

現計画の「書誌データ標準化」は少し薄くなった印象
(NCR2018も出てこなくなった)

標準作成・維持への継続的・積極的関与を期待したい
(目録規則に限らず?)

その他、用語について

「書誌データ」に典拠データを含まない

標準的定義に合わせる意図は理解できるが、そうしてしまうと
タイトル「書誌データ作成・提供計画」のすわりが悪いのでは...

「メタデータ作成・提供計画」？

「書誌コントロール計画」？

「有体資料」と「無体資料」

理解はできるが、あまり見たことがない
あえてこれを使う必然性は...